

卒業生代表 答辞

厳しい寒さの冬を乗り越え、暖かい季節へと移り変わりつつある今、私たち66回生はこの学び舎を旅立とうとしています。本日はこのような式典の場を設けていただきありがとうございます。皆様より頂戴いたしましたお祝いと励ましの言葉をしっかりと受け止め、胸に刻んでいこうと思います。

振り返れば、駒場東邦での六年間は決して平坦なものではありませんでした。

六年前、まだ小学校を卒業したばかりの私たちは、大きな希望と少しの不安を胸に駒場東邦の門をくぐりました。

オリエンテーションでは、「広げよう、そうぞうの枝」というスローガンの下、“そうぞうの木”を育てることが、学年目標として掲げられました。「何でも、とにかく、やってみろ」「日々、堅実に、基礎の蓄積を」という行動指針を胸に、それぞれの道を切り開くべく過ごし始めました。

初めての体育祭、入学3週間後で右も左も分からない私たちは、大人かと思紛う高校3年生の61回生たちに熱く指導され、体育祭に真剣に取り組みました。

当時はまだ土だったグラウンドで埃まみれになり、東邦連峰で肉弾戦となって戦う高校生たちの迫力に圧倒され、体育祭への熱意を目の当たりにしました。

文化祭では、念願だった駒場東邦の一員として、多くの来校者を迎える側に立ち、お客さんを楽しませ、同時に自分たちも楽しむことができました。文化祭実行委員の先輩たちによる生徒主体の運営は、まさしく「自主独立の気概」を体現していたと思います。

これらの経験で僕たちが気付かされたことがあります。それは、体育祭や文化祭は、駒場東邦を語る上で決して切り離すことができない、最も重要な文化であるということです。

そんな中、2020年1月、世界保健機関から新型コロナウイルスに関する「国際的に懸念される公衆衛生状況緊急事態」が宣言されました。

3月には休校になり、4月からは日本中の学校でオンライン授業や行事の縮小が行われ、中学2年生だった私たちも友人と自由に会えない制限された日々を経験しました。

様々な活動が中止となる中でも、先生方がオンラインでホームルームを行ってくれたり、毎日授業の動画を更新してくれたりしたことで、オンライン授業でも「そこに人がいる」

という安心感が、私たちの心を繋ぎとめてくれたと思っています。一方で、楽しみにしていた体育祭を自分たちの代で開催することが出来ず、どこにもぶつけることの出来ない悔しさを漏らしていた62回生の先輩たちの姿を、今でも忘れることができません。

2022年春。高校1年生のオリエンテーションで提示された学年目標は、「66七八」継続と継承」でした。

先輩たちが積み上げてきた駒場東邦の伝統を継続させるだけでなく、コロナ前の駒場東邦の重要な行事を直接知る最後の代として、後輩たちにその伝統を継承することは、私たち66回生に課せられた使命でした。

一方で、ポストコロナにおける新しい生活形式に合わせた新たな取り組み、新たな伝統の礎を創造することも求められました。

2023年5月に新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行し、少しずつ日常が戻り、かつての熱気ある学校生活を取り戻すための挑戦が始まりました。

部活動では最上級生としてリーダーシップを発揮し、夏合宿も再開させ、先輩・後輩という縦のつながりを強化しました。

文化祭では、4年ぶりに無制限で来場者を受け入れ、コロナ前と同じ形式で実施することが出来ました。自分たちが最上級生として実施した体育祭では、無制限での来場者受け入れを実現しました。中学1年の時に体験した6学年揃った熱気あふれる体育祭を再現することができました。

パンデミックによって、駒場東邦の伝統は一旦は分断されそうになりましたが、先輩たちが必死に食い止めてくれたことを忘れてはいけません。

当時、関東近郊で各学校が文化祭を断念せざるを得ないなか、相当な工夫を凝らし、入場者を迎えた文化祭を実現させた63回生、3回目の緊急事態宣言を受けながらも文化祭や修学旅行を成功させた64回生、制限のある中でも本来の姿を取り戻そうと尽力した65回生。

先輩たちの悔しい思いも、私たち66回生は継承してきたのです。

67回生、68回生の皆さん。

今日この場をもって、私たちが受け継いできたものを君たちに託します。

私たち66回生が先輩から受け継いできた伝統をそのまま継承しても良いですし、新たな時代に合わせて新しい伝統を生み出しても構いません。

自分たちのために、後輩たちのために、一人一人が「自主独立の気概」で頑張ってください。私たちがここまで歩んでこられたのは、学校や保護者の支えがあったからこそです。

悩んだときや壁にぶつかったときには、いつも親身になって相談に乗ってくれました。

学業や部活動で思うような成果を出せずに落ち込んだときも、何気ない日常の悩みを抱えたときも、耳を傾け、時には優しく、時には厳しく導いてくれました。

その言葉や励ましに、どれほど勇気づけられたことでしょうか。心より感謝申し上げます。

66回生の皆さん。

共に中高六年間で培ったものは、何よりも大切な財産です。

駒場東邦で過ごした六年間の知識と経験を糧に、今後は、時には支えあう仲間として、また時にはライバルとして、互いに高め合い、それぞれの道で活躍しましょう。

今後とも引き続きよろしく願います。

最後に、今日まで導いてくださった先生方、私たちの見えないところで支えて下さった事務職員の皆様、素敵な青春の時間を共有した先輩・後輩、そしていつも見守ってくれている家族、学校生活に携わってくださったすべての方々に御礼申し上げます。われらが母校、駒場東邦の益々の発展を心より祈念し、答辞と致します。

2025年3月7日 卒業生代表 吉徳詩音